

■オーストリアカヌー連盟 ホストタウンの安曇野を視察



コースを試漕するプライスル会長（写真左）



21日には、ハイッス駐日大使(写真右)が来庁



園児たちとの交流（アルプス認定こども園）

東京オリンピック・パラリンピック出場選手と地域住民が競技を通じて文化交流などを行う「ホストタウン事業」で、市がホストタウンとなるオーストリア共和国の関係者がこのほど、市内視察を行ったほか、市民との触れ合いを楽しみました。

11月22日には宮澤市長とカヌー連盟役員が懇談し、同国選手らを招いたカヌー教室など、今後の交流について話し合いました。ヘルベルト・プライスル会長は、地域のカヌー愛好者や団体の活動が重要になることに触れ、「関係をさらに深めたい」と話しました。

11月23日には、明科の前川カヌーシラロームコースを視察。会長らは実際にカヌーに乗り、コースの特徴を確認するとともに、集まった子どもたちも熱心に技術指導を行っていました。

安曇野市は 2020年 東京オリンピック・パラリンピックで オーストリア共和国・カヌーチームを応援します

このたび、駐日オーストリア大使フーベルト・ハイッス氏、オーストリアカヌー連盟の皆さまをお招きし、現地視察と意見交換を行いました。いただいた意見を参考に、今後、オーストリア共和国・カヌーチームのホストタウンを良机として、さまざまな事業を計画してまいります。明科前川のカヌー競技場や当市の国際姉妹都市・クラムザッハがあるオーストリア共和国の文化について、広く皆さまに知っていただく機会を設け、国際交流の推進、地域のスポーツ振興を図り、多文化共生社会の実現を目指します。

安曇野市長 宮澤 宗弘



■新総合体育館 基本設計市民ワークショップを開催

新総合体育館の活用を考えるワークショップを11月5日、14日の全2回、市役所本庁舎などで開催しました。

ワークショップの参加者は両回ともグループに分かれ、「体育館で何をしたいか」、「体育館をどう使うか」をテーマに議論を進めました。

11月14日に開いた第2回会議

では、平面イメージ図を参照しながら、利用者の視点から体育館の使い方について話し合いました。

この日は「公式のバスケットコート・バレーコートが3面欲しい」、「プロムナードでは、雨天時に一時的にしのげるスペースが欲しい」、「防災倉庫には外からの搬出入口が必要」といっ



グループに分かれて意見集約が行われた

た意見が挙がりました。市では今回のワークショップで出された意見を参考に、本年度末までに基本設計をまとめる予定です。

新総合体育館は、豊科南部総合公園南側に建設を計画しており、平成32（2020）年度中の完成を目指しています。

■男女共同参画計画案を答申 来年3月に策定

市男女共同参画推進審議会（降旗幸子会長）は11月8日、第3次市男女共同参画計画の案を宮澤市長に答申しました。

計画案では、「こころ通い合う男女共同参画社会 安曇野」を目指すべき社会像に掲げ、女性の職業生活における活躍の推進を含めた31の施策を挙げてい

ます。また、これらの施策には平成34（2022）年度までの数値目標が定められています。具体的には、市の管理・監督職員に占める女性の割合を平成28年度実績の19・6%から22%に引き上げることや、市内事業所における女性の登用制度を41・3%から50%に引き上げること

などです。宮澤市長は「それぞれの分野において女性の豊かな能力を發揮していただきたい。答申の内容を尊重し活用したい」と述べました。この計画は、パブリックコメントを経て、来年3月に策定する予定です。



答申書を手渡す降旗幸子会長（写真右）と田中吉弘副会長（写真中央）